

場	時	主な学習の流れ	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
考えをもつ場【拡散的思考】	①	大正時代の日本と世界の動きを年表にまとめ、時代を大観する。	A	・資料を基に、二度の世界大戦に関わる基本的な事項をまとめ、時代の特色を踏まえながら理解している。	・追究課題について、切り口を考察し、比較した上で意思決定している。	・時代の特色を捉えた上で、追究課題を追究しようとするとともに、追究課題について意思決定した過程を見直しながら意思決定しようとしている。
	②	第一次世界大戦の背景とその影響を捉える。				
	④	昭和初期から終戦までの日本と世界の動きを年表にまとめ、時代を大観する。	B	・資料を基に、二度の世界大戦に関わる基本的な事項をまとめ、理解している。	・追究課題について、切り口を考察した上で意思決定している。	・時代の特色を捉えた上で追究課題を追究しようとする、または、追究課題について意思決定した過程を見直しながら意思決定しようとしている。
	⑤	世界恐慌の影響と第二次世界大戦開戦から終戦までの経緯や影響を捉える。				
	⑦	時代の特色を捉え、追究課題を確認する。意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M①】	方法	○発言の内容(①～⑥) ●「ステップチャート」の記述内容	●「ステップチャート」の記述内容	○発言の内容(⑦) ○「ステップチャート」の記述内容
	⑧	追究課題「日本が日中・太平洋戦争に向かうことになった最も大きな要因は何か」 切り口A「経済の悪化」 切り口B「軍部の台頭」 切り口C「国際関係の悪化」				
	考えを広げる場【拡散的思考】	⑧	「経済の悪化」が、国民と政府に及ぼす影響について捉える。	戦争に向かうことにつながる点(☆)・つながらない点(★)		
⑨		国民の立場		政府の立場		
⑩		経済の悪化		☆欠食児童や娘の身売りをしなければいけないほど生活が困窮していた。 ☆満州国の侵略を否定している浜口内閣を批判しており、政府への不満が高まっていた。 ★重化学工業が発達し、国民の生活が回復したので不満が少なくなった。 ★繊維製品の輸出額が増加し、生活が回復したので不満が少なくなった。	☆金融恐慌や裏が白い紙幣の発行など、政府が混乱しており、信頼を失っていた。 ☆財閥が出現し、発言力を高めており、政府の発言力が小さくなっていった。 ★浜口内閣は緊縮財政で恐慌を乗り切ろうとしており、満州国の侵略を否定していた。 ★重化学工業の発達や繊維製品の輸出額が増加し、国力が回復していた。	
⑪		軍部の台頭		☆国家総動員法や隣組などによって、国民生活の統制が強まり、戦争に反対できなくなっていった。 ☆五・一五事件では、軍部の動きを支持しており、政府への信頼が低下していた。 ★滝川事件で京大教授たちが軍国主義を反対していたなど、軍部の台頭に否定的な国民もいた。 ★軍批判をして除名された国会議員が、その後の翼賛選挙で当選しており、国民の支持があった。	☆五・一五事件や二・二六事件によって、軍部の政治介入が強まり、政党政治が崩壊した。 ☆天皇機関説の否定や国体明徴声明を出すなど、軍の圧力によって政府が動いていた。 ★軍部出身の内閣総理大臣でも大戦不介入を宣言・継承していた。 ★軍を批判する国会議員への国民の支持があったので、軍主導の政府が支持されていた訳ではなかった。	
⑫		「国際関係の悪化」が、国民と政府に及ぼす影響について捉える。	国際関係の悪化	☆松岡洋右を大歓声で迎えており、国連脱退を支持していた。 ☆言論や文化の統制によって、アメリカやイギリスを敵国とみなす国民が増えていった。 ★言論や文化の統制によって生活が不自由となったので、戦争に対する不満が高まっていた。 ★資源不足によって軍需生産を優先した結果、生活必需品が不足し、国民の不満が高まった。	☆国連脱退後は日独伊三国同盟を結んでおり、ファシズム諸国の影響を受けていた。 ☆アメリカとの関係悪化によって資源不足となり、東南アジアへの進出が不可欠な状況となった。 ★松岡洋右自身も国連に残るべきと考えており、政府は国際的な孤立を望んでいる訳ではなかった。 ★大東亜共栄圏の提唱など、アジアで協力して欧米からの侵略を防ぎ、平和を確立しようとしていた。	
⑬						
⑭		意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M②】【M①】	方法	○発言の内容(⑧～⑬) ●「ステップチャート」の記述内容	●「ステップチャート」の記述内容	○発言の内容(⑭・⑮) ○「ステップチャート」の記述内容
⑮		【個々の討論】 振り分けられた立場が異なる生徒が混在する小集団内で、「ステップチャート」を使いながら意思決定した過程を説明し、検討する。議論の中で出された意見を基に、自分が意思決定した過程を振り返る。意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M③】【M②】				
考えを創り上げる場【収束的思考】		⑯	【立場の討論】 振り分けられた立場が異なる生徒が混在する小集団内で、複数の立場の意見を踏まえて、どの切り口が最もふさわしいかを議論する。これまでの学習内容や本時に議論したことを振り返り、「どうすれば、戦争に向かうことを防げるか」について考える。【RM①】	集団の討論で予想される生徒の発言例		
		⑰	【集団の討論】 概念的知識を踏まえて、どの政策が最もふさわしいかを学級全体で議論する。	切り口B「軍部の台頭」を選んだ生徒の主張例 ・国民は、五・一五事件を起こした軍部の動きを支持しており、情勢を見定めることができなくなっていた。政府は、五・一五事件や二・二六事件によって、軍部の政治介入が強まり、政党政治が崩壊したので、政府は安定した統率力を保つことができなくなっていた。 切り口B「軍部の台頭」の主張に対する反論例 ・翼賛選挙で軍を批判する人が当選するなど、軍の動きを支持しない国民は多数おり、情勢を見定めることができなくなっている訳ではない。 切り口B「軍部の台頭」を選んだ生徒の再反論例 ・軍部のやり方に反対する人はいたかもしれないが、国家総動員法や隣組など、軍部は国民の意識が戦争に向かうための統制を行い、国民が情勢を見定められなければならないようにしていた。 切り口B「軍部の台頭」を選んだ生徒の最終的な主張例 ・切り口Aは、経済の悪化は一時的なものであり、国力は回復したので、国民が情勢を見定められなくなった要因としては低い。また、政府も経済を回復させるために他国の侵略することは否定していたので、安定した統率力を保っていた。切り口Cは、国際関係の悪化によって、国連を脱退してファシズム諸国と同盟を結んでいたのが、安定した統率力を保つことはできなくなってきたが、国民は言論や文化の統制に不満を持っているので、情勢を見定められなくなった訳ではない。それに比べ切り口Bは、五・一五事件以降、軍部の政府への発言力を強め、政党政治を崩壊させているので、政府が安定した統率力を保つことができなくなっていた。国民も軍部の統制に不満があったかもしれないが、国家総動員法や隣組による監視などで、戦争に向かわざるを得なくなっており、情勢を見定められなくなってしまっていた。		
	⑱	概念的知識を他の時代に当てはめて考える。意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【収M①】【M③】	A	・概念的知識を社会的な事象と結び付けて理解している。	・追究課題について、概念的知識を踏まえて意思決定している。	・これまで学習してきたことを基に追究課題を追究しようとするとともに、追究課題について意思決定した過程を見直しながら意思決定しようとしている。
	⑲	単元テストを行う。	B	・概念的知識を理解している。	・追究課題について、概念的知識の一部を踏まえて意思決定している。	・これまで学習してきたことを基に追究課題を追究しようとする、または、追究課題について意思決定した過程を見直しながら意思決定しようとしている。
	⑳	意思決定した過程とこれまでの学習内容を振り返り、「単元レポート」としてまとめる。【拡・収RM①】【RM②】	方法	○発言の内容(⑱) ●「ステップチャート」の記述内容 ○単元テスト ○「単元レポート」の記述内容	○発言の内容(⑲・⑳) ●「ステップチャート」の記述内容 ○「単元レポート」の記述内容	○「ステップチャート」の記述内容 ○「単元レポート」の記述内容

場	時	主な学習の流れ	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度												
考えをもつ場【拡散的思考】	①	戦後から現代までの日本と世界の動きを年表にまとめ時代を大観する。	A	・資料を基に、戦後の日本や世界の動きに関わる基本的な事項をまとめ、時代の特色を踏まえながら理解している。	・追究課題について、切り口を考察し、比較した上で意思決定している。												
	②	民主化に向けた動きとその影響を捉える。															
	③	冷戦下の国際社会や日本が国際社会に復帰するまでの経緯やその影響を捉える。															
	④																
	⑤	日本の高度経済成長が国内やグローバル化する世界に及ぼした影響について捉える。															
	⑥																
	⑦	時代の特色を捉え、追究課題を確認する。意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M①】				B	・資料を基に、戦後の日本や世界の動きに関わる基本的な事項をまとめ、理解している。	・追究課題について、切り口を考察した上で意思決定している。									
⑧	追究課題「戦後の日本が果たしてきた最も重要な役割は何か」 切り口A「平和の維持」 切り口B「経済の発展」 切り口C「外交関係の構築」																
⑨																	
⑩																	
⑪																	
⑫																	
⑬																	
考えを広げる場【拡散的思考】	⑭	意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M②】【M①】	方法	○発言の内容(①～⑥) ●「ステップチャート」の記述内容	○発言の内容(⑦) ○「ステップチャート」の記述内容												
	⑮	【個々の討論】 振り分けられた立場が異なる生徒が混在する小集団内で、「ステップチャート」を使いながら意思決定した過程を説明し、検討する。議論の中で出された意見を基に、自分が意思決定した過程を振り返る。 意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【拡M③】【M②】															
	⑯																
	⑰																
	⑱																
	⑲																
	⑳																
考えを創り上げる場【収束的思考】	⑳	【立場の討論】 振り分けられた立場が異なる生徒が混在する小集団内で、複数の立場の意見を踏まえて、どの切り口が最もふさわしいかを議論する。これまでの学習内容や本時に議論したことを振り返り、「どうすれば国家として重要な役割を果たせるか」について考える。【RM①】 概念的知識「自国の発展につながり、諸外国に貢献できれば、国家として重要な役割を果たせる」	身につけさせたい知識の例	重要な役割につながる点(☆)・つながらない点(★)	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>自国の立場</th> <th>諸外国の立場</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平和の維持</td> <td>☆平和主義によって、戦争に参加したり巻き込まれたりすることなく、平和な社会を築いてきた。 ☆自衛隊の設置により、有事の際に迅速に支援できるようになった。 ★朝鮮戦争に関わる特需景気によって、戦後の復興を早めることにつながった。 ★日米安全保障条約によって、米軍基地が沖縄を中心に設置され、様々な問題を引き起こしている。</td> <td>☆非核三原則など、核廃絶を世界に訴えることで国際平和の実現に貢献してきた。 ☆国際平和維持活動に自衛隊が活動するなど、世界各地の平和維持に貢献してきた。 ★沖縄の米軍基地からベトナム戦争に出撃するなど、米軍基地が戦争に活用されていた。 ★世界各地で地域紛争やテロなどが多発しており、日本の取り組みだけでは限界がある。</td> </tr> <tr> <td>経済の発展</td> <td>☆三種の神器の普及や所得倍増計画などで国民の生活水準が上がった。 ☆新幹線や高速道路の開通など、都市間の結びつきが強まっていた。 ★四日市ぜんそくや水俣病など、各地で公害問題が深刻化した。 ★バブル経済の崩壊によって、長期の不況に陥り、経済格差が広がった。</td> <td>☆石油危機後に省エネルギーの技術力を高め、世界の環境保護の取り組みに貢献している。 ☆石油危機以降の安定成長によって経済大国となり、発展途上国にODAなどで様々な支援をしている。 ★日本の経済成長によって日米貿易摩擦を引き起こし、アメリカとの関係が悪化した。 ★経済成長を優先させたり、火力発電中心の発電を行ったりして、地球温暖化を進行させている。</td> </tr> <tr> <td>外交関係の構築</td> <td>☆サンフランシスコ平和条約によって、独立国としての主権を回復することができた。 ☆日ソ共同宣言によってソ連との国交が回復し、国連に加盟することができた。 ★ソ連(ロシア)とは平和条約が未締結で、北方領土の返還交渉が続けられている。 ★北朝鮮とは、日朝平壤宣言が出されたものの、拉致問題等は未解決で国交も正常化していない。</td> <td>☆サンフランシスコ平和条約によって、東南アジア諸国は様々な経済協力を受けている。 ☆日韓基本条約によって、日本から経済協力や文化協力などを受けている。 ★日中平和友好条約を締結し国交が正常化されたが、領土問題や歴史認識で日本との見解が異なっている。 ★日朝平壤宣言以降、日朝国交正常化交渉が進展しておらず、逆にアメリカとの首脳会談が増えてきている。</td> </tr> </tbody> </table>		自国の立場	諸外国の立場	平和の維持	☆平和主義によって、戦争に参加したり巻き込まれたりすることなく、平和な社会を築いてきた。 ☆自衛隊の設置により、有事の際に迅速に支援できるようになった。 ★朝鮮戦争に関わる特需景気によって、戦後の復興を早めることにつながった。 ★日米安全保障条約によって、米軍基地が沖縄を中心に設置され、様々な問題を引き起こしている。	☆非核三原則など、核廃絶を世界に訴えることで国際平和の実現に貢献してきた。 ☆国際平和維持活動に自衛隊が活動するなど、世界各地の平和維持に貢献してきた。 ★沖縄の米軍基地からベトナム戦争に出撃するなど、米軍基地が戦争に活用されていた。 ★世界各地で地域紛争やテロなどが多発しており、日本の取り組みだけでは限界がある。	経済の発展	☆三種の神器の普及や所得倍増計画などで国民の生活水準が上がった。 ☆新幹線や高速道路の開通など、都市間の結びつきが強まっていた。 ★四日市ぜんそくや水俣病など、各地で公害問題が深刻化した。 ★バブル経済の崩壊によって、長期の不況に陥り、経済格差が広がった。	☆石油危機後に省エネルギーの技術力を高め、世界の環境保護の取り組みに貢献している。 ☆石油危機以降の安定成長によって経済大国となり、発展途上国にODAなどで様々な支援をしている。 ★日本の経済成長によって日米貿易摩擦を引き起こし、アメリカとの関係が悪化した。 ★経済成長を優先させたり、火力発電中心の発電を行ったりして、地球温暖化を進行させている。	外交関係の構築	☆サンフランシスコ平和条約によって、独立国としての主権を回復することができた。 ☆日ソ共同宣言によってソ連との国交が回復し、国連に加盟することができた。 ★ソ連(ロシア)とは平和条約が未締結で、北方領土の返還交渉が続けられている。 ★北朝鮮とは、日朝平壤宣言が出されたものの、拉致問題等は未解決で国交も正常化していない。	☆サンフランシスコ平和条約によって、東南アジア諸国は様々な経済協力を受けている。 ☆日韓基本条約によって、日本から経済協力や文化協力などを受けている。 ★日中平和友好条約を締結し国交が正常化されたが、領土問題や歴史認識で日本との見解が異なっている。 ★日朝平壤宣言以降、日朝国交正常化交渉が進展しておらず、逆にアメリカとの首脳会談が増えてきている。
		自国の立場				諸外国の立場											
	平和の維持	☆平和主義によって、戦争に参加したり巻き込まれたりすることなく、平和な社会を築いてきた。 ☆自衛隊の設置により、有事の際に迅速に支援できるようになった。 ★朝鮮戦争に関わる特需景気によって、戦後の復興を早めることにつながった。 ★日米安全保障条約によって、米軍基地が沖縄を中心に設置され、様々な問題を引き起こしている。				☆非核三原則など、核廃絶を世界に訴えることで国際平和の実現に貢献してきた。 ☆国際平和維持活動に自衛隊が活動するなど、世界各地の平和維持に貢献してきた。 ★沖縄の米軍基地からベトナム戦争に出撃するなど、米軍基地が戦争に活用されていた。 ★世界各地で地域紛争やテロなどが多発しており、日本の取り組みだけでは限界がある。											
	経済の発展	☆三種の神器の普及や所得倍増計画などで国民の生活水準が上がった。 ☆新幹線や高速道路の開通など、都市間の結びつきが強まっていた。 ★四日市ぜんそくや水俣病など、各地で公害問題が深刻化した。 ★バブル経済の崩壊によって、長期の不況に陥り、経済格差が広がった。				☆石油危機後に省エネルギーの技術力を高め、世界の環境保護の取り組みに貢献している。 ☆石油危機以降の安定成長によって経済大国となり、発展途上国にODAなどで様々な支援をしている。 ★日本の経済成長によって日米貿易摩擦を引き起こし、アメリカとの関係が悪化した。 ★経済成長を優先させたり、火力発電中心の発電を行ったりして、地球温暖化を進行させている。											
	外交関係の構築	☆サンフランシスコ平和条約によって、独立国としての主権を回復することができた。 ☆日ソ共同宣言によってソ連との国交が回復し、国連に加盟することができた。 ★ソ連(ロシア)とは平和条約が未締結で、北方領土の返還交渉が続けられている。 ★北朝鮮とは、日朝平壤宣言が出されたものの、拉致問題等は未解決で国交も正常化していない。				☆サンフランシスコ平和条約によって、東南アジア諸国は様々な経済協力を受けている。 ☆日韓基本条約によって、日本から経済協力や文化協力などを受けている。 ★日中平和友好条約を締結し国交が正常化されたが、領土問題や歴史認識で日本との見解が異なっている。 ★日朝平壤宣言以降、日朝国交正常化交渉が進展しておらず、逆にアメリカとの首脳会談が増えてきている。											
	㉑	【集団の討論】 概念的知識を踏まえて、どの政策が最もふさわしいかを学級全体で議論する。															
	㉒	概念的知識を他の国に当てはめて考える。意思決定した過程を「ステップチャート」にまとめ、自己評価する。【収M①】【M③】				A	○発言の内容(⑧～⑬) ●「ステップチャート」の記述内容	●「ステップチャート」の記述内容	○発言の内容(⑭・⑮) ○「ステップチャート」の記述内容								
㉓	単元テストを行う。																
㉔																	
㉕																	
㉖																	
㉗																	
㉘																	
㉙	意思決定した過程とこれまでの学習内容を振り返り、「単元レポート」としてまとめる。【拡・収RM①】【RM②】	方法	○発言の内容(⑱) ●「ステップチャート」の記述内容 ○単元テスト ○「単元レポート」の記述内容	○発言の内容(⑯・⑰) ●「ステップチャート」の記述内容 ○「単元レポート」の記述内容	○「ステップチャート」の記述内容 ○「単元レポート」の記述内容												
㉚	概念的知識を理解している。																
㉛																	
㉜																	
㉝																	
㉞																	
㉟																	